京都歴史教育者協議会５月例会（５／２８）のご案内

高校世界史の新しい教え方と中学歴史での生徒の歴史認識を揺さぶる取り組みに学ぶ

～全国大会（7/２９～３０）の第2回レポート検討会～

全国の少なくない学校で、「教科書の太字を丁寧に暗記させる」ことが歴史教育であるかのような授業がされている現状があります。そのような「歴史」教育を全面的に否定するものではありませんが、最新の研究成果に学びつつ、生徒の歴史認識を揺さぶることが社会科教師の使命でもあるような気がします。今回は、そのような立場から全国大会で報告予定の２本の意欲的なレポートに学びます。ベテランと若手の「競演」です。ふるってご参加ください。

京都歴史教育者協議会
【連絡先】〒611-0031　宇治市広野町八軒屋谷 33-1　立命館宇治高校気付　森口　等
☎0774-41-3000　FAX☎0774-41-3555 メール　moriguti@ujc.ritsumei.ac.jp

【日時】　５／２８（土）　１５：００～１８：００（予定）
【場所】　同志社大学今出川キャンパス　クローバーハウス（教職員会館）２階会議室
→烏丸今出川の交差点を東へすぐの同志社大学の木製の門を入ってすぐにある2階建ての建物です！

【テーマ】世界史の新しい教え方～最新の研究成果をどう取り入れるか～

【報告者】後藤　誠司さん（京都市立日吉が丘高校）

高校世界史の教科書の内容は、近年これまでにも増してかなり書きかえられている。歴史学の最新の研究成果をもとに教科書の記述がどのように変化しているのかを、それぞれのジャンルに則して見ていきたい。新旧教科書の記述の比較をつうじて現在どのような世界史像を描くことができるのか、また求められているのかを考えてみたい。

（1）世界史研究の最近の動向
歴史学一般、最近の世界史シリーズなど本の紹介をとおして、新しい研究動向の特徴と世界史教育の現状について検討してみたい。

（2）教科書の書きかえのめざましいジャンル
具体的な事例として、①中国史、②東南アジア史、③中央ユーラシア史、④近代世界システム論、⑤グローバルヒストリーなどを紹介したい。

（3）報告者による授業実践例の紹介

（4）問題提起 ── 世界史教育の向かう先は？

【テーマ】　「より良い日中関係のあり方の模索」～南京事件をめぐって

【報告者】　篠原　貴明さん（立命館宇治中）

【報告要旨】

南京大虐殺については今でも両国間で、その犠牲者数をめぐっての食い違いがあり、ごく一部では「否定論」すらささやかれており、その全体像をめぐっての結論が出ておらず、日中間で充分な建設的議論が出来ずにいる。歴史教育における日中戦争の扱いが軽いといわれる日本の生徒、日中戦争（抗日戦争）について非常に詳細に学ぶ中国の生徒と好対照の状況にある中 で、両国間の人的にも経済的にも文化的にも結びつきがより強くなった 21 世紀の今日になっても、尖閣諸島の問題を見ても両国民の間には依然として深い溝が横たわっている。このように、両国間の歴史認識の差異がある現状を少しでも打破するため、日中戦争とこの事件の意義を深く生徒に考えさせることができる授業を模索した。そうして生まれたのが本報告である。本報告は、未来を担う中学生に、日本と中国の歴史教科書の日中戦争に関する記述を比較させて、中国人が一般に持っている反日感情の原点となった史実を確認させた上で、未来志向のより良い日中関係のあり方を討議させた授業の実践報告である。

（前任の京都女子中学と立命館宇治中学での実践）